



令和3年11月29日
令和3年度学校だより NO.34①
加古川市立平荘小学校

あいさつ週間を終えて

1学期のあいさつ運動（強化週間）に引き続き、2学期も11月8日（月）から11月19日（金）まで、あいさつ運動（強化週間）を実施しました。

子どもたちは、児童会が作成したあいさつマスターのバッジを胸に付けながら、元気にあいさつ運動を推進しました。

大事なことは、あいさつ運動強化週間後です。だれかに、「あいさつをしましょう。」と言われてあいさつをしているのでは、自分の気持ちを伝えるあいさつにはなっていません。

あいさつ運動を一つのきっかけとして、あい

さつの必要性を考え、子どもたち一人一人が自分にとってよい習慣（気持ちのよい挨拶）を身につけてほしいと願います。学校の教育活動の中でも教職員が一丸となって気持ちのよいあいさつに取り組んでいきます。保護者の皆様、そして、地域の皆様、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

しつけ

躰（しつけ）の三原則

『躰（しつけ）…「美しい所作が「身」に付く』とは、礼儀・作法を教え込むことをいいます。礼儀・作法は、社会に出た時にお互いが気持ちよく生活するための思いやりの所作です。お互いが気持ちよく生活できると、幸せに生きることができます。

国民教育の父と言われる教育哲学者の森信三氏は、『躰の三原則』を提唱されています。それは、『あいさつ』『返事』『はきもの』の三つです。

1 気持ちのよいあいさつをします。

特に朝、「おはようございます」と明るくあいさつをします。

あいさつ…「おはよう（ございます）」「お願いします」「ありがとう（ございます）」

「失礼します」「いただきます」「ごちそうさまでした」「こんにちは」「さようなら」

2 「はい」と大きな声で返事をします。

3 履き物をそろえ、席を立ったら椅子をいれます。

…トイレのスリッパ、靴箱のくつ等

これらの三つの躰を「つ」のつくうちに身につけておくことが肝要だと提唱されています。

「つ」のつくうちとは、「1つ（ひとつ）、2つ（ふたつ）、3つ（みっつ）、・・・8つ（やっつ）、9つ（このつ）」、つまり、9歳までにということです。そして、この三原則を言葉で伝え、子どもにさせるだけでなく、親（大人）自らが率先して行動で示すことが大切だと提唱されています。

躰が身につくと、子どもの「我」がとれるそうです。「我」がとれるということは、素直な気持ちになるということであり、心の受け入れ態勢が整うということです。こういう子どもは、何でも学び、吸収し、伸びていくことができます。

躰は、「し続ける」とも言います。学校と家庭・地域が連携しながら、『躰（しつけ）の三原則』で提唱されている三つのことが自然にできるように取り組んでいきたいと思ひます。**本物は続きます。続けるると本物になります。**子どもたちが気持ちよく生活できるよう、『生きる力』を付けていきたいと思ひます。ご協力をよろしくお願いいたします。

平荘っ子 11月8日(月)~19日(金)

あいさつ運動

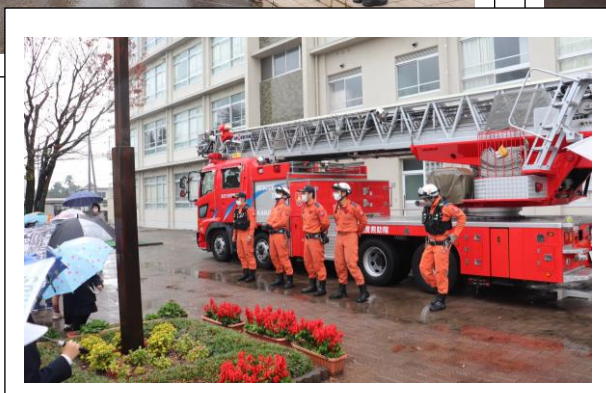
秋だけど、「あじさい」でいきましょう！！

あいての目をみて じぶんから さわやかに

いつでも どこでも だれにでも

はしご車を見学しました（1・2年生）

11月22日（月）に、加古川中央消防署（消防本部）の方が、有事の際に、はしご車が敷地内にスムーズに入って救助活動ができるかどうかの点検のため来校されました。その際に、1・2年生の子どもたちは、はしご車の見学をさせていただきました。



消防士さんははしごを屋上まで伸ばされました。その長さは45mです。子どもたちは、大興奮でした。

1年生では、国語科の「じどう車くらべ」の学習の真っ最中です。「はしご車の『しごと』と『つくり』」について、実際に自分の目で確かめることができました。また、2年生では、生活科の「もっと知りたいたんけんたい」の学習で、「町にはどんな人がいるかな?」「町の人にインタビューしよう」の視点で見学をしました。とてもよい学習の機会となりました。加古川市消防本部の皆さん、どうもありがとうございました。

3年生は、オンライン工場見学を行いました

11月22日（月）に、3年生は、教室に居ながら、キッコーマンのしょうゆ工場をオンラインで見学しました。しょうゆができるまでの工場内での工程が、実際に歩いて見学している感じで見学することができました。国語科で『すがたをかえる大豆』の学習もしています。大豆がしょうゆに変身する過程に興味を持って見学することができました。

